

大阪市西区は、江戸時代から長堀を中心大阪の木場として栄えた地域である。この木材ゆかりの地にあった旧組合会館を、その歴史と伝統を継承しつつ、最新の技術を用いて国内初の耐火木造建築へと建て替えるプロジェクトである。

三層吹き抜けのエントランスホールに足を踏み入れると、天井まで伸びる檜の格子壁と共に、この建物を支える集成材による木造架構を一望に見渡すことができる。大きな窓で気持ちよく外部に開かれたこのホールには、天然の木の包まれた会館を構成する各スペースが顔を覗かせる。ほのかな木の香も感じられ、木造建築の「やさしさ」と「あたたかさ」に包まれる爽やかな空間となっている。

水害を考慮した一階部分と防火、耐震壁となる北側外壁は鉄筋コンクリート造であるが、南側道路に面して天井一杯の木製サッシにより開放された執務空間は、すべて

一時間の耐火性能を持つ木造建築となっている。国産木材振興のための「木の殿堂」を目指した建築主の想いを受け、施工者は、二〇一一年の設計プロポーザル以前から耐火集成材の開発を開始して大臣認定を取得、数々の技術的課題を解決しながら、二〇一三年には国内初となる耐火木造建築を完成させた。設計者も含め、ここに払われた熱意と努力、技術力には敬服せざるを得ない。

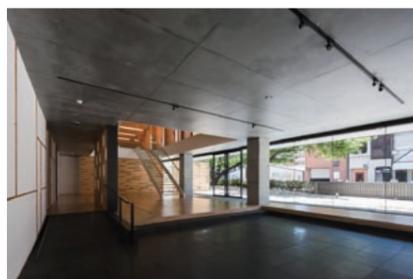
館内は、「木のショールーム」として巧みに設えられている。内装や家具には、伝統的な木材加工技術や、それを現代的にアレンジした建材などが各所にちりばめられており、現地での説明を聞くにつれ、建築主、設計者、施工者が一緒になって、ある意味で楽しみながこの建物をつくり上げてきた様子が伝わってきた。

木造部分の外周には、奥行のある軒庇が設けられている。この庇は、雨除け、日除けとして建物を

保護し、四季を通して省エネルギーの役割も果たしている。また、災害時には上階への延焼を防止し避難の経路にもなる。旧会館の時代から大切に守られてきた樹齢六五年を超える二本の桜の樹を囲うように、緩やかに弧を描くこの軒庇と木の外装で構成される木造建築の姿は、鉄とコンクリートの街並みの中で、「都市の中の森」として潤いのある風景を作り出している。



東南外観。



1階の展示スペース。

選評



大阪木材仲買会館



2階バルコニー軒庇。



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー 静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall ダイビル本館・中之島 四季の丘 はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅

建築主

木のぬくもりに出会える空間
より「大阪木材仲買会館」

新会館のある大阪・堀江は太閤さんの時代から大阪の木場として栄え、材木を運ぶ交通の要衝だ。その歴史と伝統を踏まえ、健康や環境面でも優れた機能を持つ木材の有効性をより多くの方々に知ってもらうことで国産材の利用促進の機運を盛り上げたい。そして、この建物が名実ともに木材業界のランドマークになることを願ってスタートしたプロジェクトである。新会館は、木材業界、建築業界、

そして官公庁関係の方々、大学などの教育関係、地域の人々と、3年目に入った今も月平均25組の見学者が訪れている。訪れた方々がまず驚かれるのは、都会の中に突然現れた森を意識するファサードだ。建物内正面には、6mを越す銘木板が挟まった木格子壁が、そして柱や梁が現しとして連なる豪快さを感じていただいている。皆様の感想を聞き、本当に当初描いた木の殿堂になり得たと実感している。



大阪木材仲買協同組合
理事長
宇田靖彦
Yasuhiko Uda

設計者

より

「都市の中の森」を創る

近年、木材の利用が国を挙げて叫ばれているが、多くの人々が生活する都市密集地域では、建物への木材利用、特に構造体への利用が困難である。その都市部において「コンクリートと鉄の都市」を「木の森」に変えることを目指し新たに開発した耐火木造も用いることで、木造オフィスのモデルを追及した。外装にも木材の表情を生かすために日本の伝統建築にならない深い軒庇を設けることで、木

材を雨がかりや日差しから保護しつつ、既存の桜の木を緩やかに囲み、都市と連続した内外の中間領域を形成することで街ゆく人々とほどよいつながりを作り出している。木の温もりと安らぎが感じられる空間を、都市部で生活するオフィスワーカーだけでなく、建物を訪れる人々、街の人々にも提供することで、人々のくらしをより豊かにする「都市の中の森」としての役割をもった建物を実現した。



株式会社竹中工務店
大阪本店 設計部
主任
白波瀬智幸
Tomoyuki Shirahase

施工者

国内初の耐火木造を実現した
よりトータルエンジニアリング

国内初となる耐火木造建築を実現可能にしたのは、設計・施工・開発の各領域を横断するトータルエンジニアリングである。とりわけ施工に関しては、耐火集成材の製造業者の開拓に始まり、製作方法、品質管理手法、施工方法など、「国内初」に潜在する様々な技術的課題を解決しながら工事を進めてきた。中でも特に注力した取組みは、「木を汚さずにつくる」技術である。当然ながら耐火集成材

は現しの構造部材であることから、木材表面を汚損するコンクリート打設時のアルカリ性余剰水対策が最重要ポイントとなった。数々のモックアップ試験を入念に行い、コンクリート余剰水に対する養生手法を構築・実践した。このように、当会館の施工に当たっては、木を慈しむ精神を根底におき、木を守りながらつくるということを愚直に実践できたプロジェクトであった。



株式会社竹中工務店
大阪本店 作業所
主任
平池拓美
Takumi Hiraike



南側外観。都市の中の森として潤いのある風景をつくり出す。



1階エントランスロビー。内装や家具は伝統的な木材加工技術などにより「木のショールーム」としての機能も果たす。

モックアップを繰り返しながら入念に進められた施工と、竣工後も敢えて下足での使用を控えたという、館員の方々の丁寧な取り扱いと維持管理により、完成から二年を経過した現在も、建物内外の木肌はシミやひび割れもなく、美しく保たれている。

これからも利用者に愛されながら、二〇年、三〇年と時を重ね、やがて木造建築ならではの風格ある美しい姿をこの地に残していくであろう、まさにBCS賞にふさわしい作品である。

【選考委員】
五十嵐太郎・栗生明・山本嘉彦



構造体の建て方。1時間の耐火性能が認められた集成材の開発をはじめ、数々の技術的課題を解決した。



2階事務室。

計画概要

建築主：大阪木材仲買協同組合
設計者：株式会社竹中工務店
施工者：株式会社竹中工務店

所在地：大阪府大阪市西区南堀江4-18-10
竣工日：2013年3月21日

敷地面積：1,226.40㎡
建築面積：453.27㎡
延床面積：1,032.19㎡

階数：地上3階
構造：木造+鉄筋コンクリート造
(一部鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造)